

認知症施策の推進（鳩山町認知症施策推進計画）

鳩山町の認知症施策の概要

（１）認知症初期集中支援推進事業

認知症専門医と看護師、社会福祉士、保健師、管理栄養士等が訪問し、認知症の予後予測や専門病院への受診勧奨を行い、あわせて認知症予防の啓発活動を行います。

事業対象者は、「在宅生活で 40 歳以上の方」「認知症が疑われる、または医療・福祉サービスを受けていない方」「認知症の行動・心理症状が顕著で家族が対応に苦慮している方」です。

（２）認知症地域支援推進員等設置事業

認知症になっても住み慣れた地域で生活を継続するためには、医療・介護及び生活支援を行うサービスが有機的に連携したネットワークを形成し、認知症の方への効果的な支援を行うことが重要です。現在は、認知症地域支援推進員を 4 名配置し、認知症予防に関する支援体制の構築を図っています。

（３）認知症サポーター養成講座の開催

急速な高齢化により、認知症に関する相談事例が年々増加しています。認知症を正しく理解し、偏見を持たず、認知症の方や家族を温かい目で見守ることができる認知症サポーターを増やし、認知症になっても住み慣れた地域で安心して暮らせる町づくりを推進するため、一般町民や小・中学生・大学生等も対象に、継続的に認知症サポーター養成講座を開催します。

（４）認知症ケア向上推進事業

地域の高齢者が気軽に立ち寄れ、小地域のネットワークによる身近な高齢者の見守り活動を行う拠点として「はーとんカフェ（認知症カフェ）」や「手作業の会」をボランティアの協力を得ながら開所し、認知症の方を支える取り組みやつながりを支援しています。

また、在宅で認知症介護されている家族介護者に対して、介護技術のノウハウに関する相談を身近な場所で行える体制の整備を実施するため、鳩山松寿園東館に「認知症ケア相談室」を設置しています。

そして、認知症に関する周知啓発のために「鳩山町認知症ケアパス」を作成しています。こちらは、若年性認知症や高次脳機能障害のある方への支援も含めて、多くの方に読んでいただくよう、内容を随時見直し、認知症等の支援について普及・啓発を図ります。

（５）徘徊高齢者の早期発見・保護施策

全国で認知症による徘徊行方不明者の事例があり、今後も単身高齢者、日中独居世帯の増加に伴う、徘徊行方不明者の増加が考えられるため、町では、「は一とん見守りシール交付事業」を実施しています。

加えて、令和 7 年度より「鳩山町認知症徘徊高齢者等探索システム利用助成事業」を開始し、認知症徘徊高齢者等の安全な生活を確保するとともに、介護者の精神的及び経済的負担の軽減を図ることを目的として実施します

（６）認知症検診

認知症は早期発見及び早期治療によって、進行の遅延を図ることができます。

潜在化する認知症予備群である方を如何に治療につなげることができるかが、認知症の方が住み慣れた地域で暮らす上で非常に重要となります。そのため、70 歳及び 75 歳到達の高齢者を対象に個別検診による認知症検診を実施して、認知症予防等の視点からの施策の充実を図ります。

（７）鳩山町高齢者補聴器購入費助成事業

聴力機能の低下により日常生活に支障をきたしている高齢者に対し、補聴器の購入に要する費用の一部を助成することにより、コミュニケーション能力の向上を図るとともに、認知症予防及びフレイル予防に有効な社会参加を促進し、もって高齢者の生活の質の向上に寄与することを目的として実施します。

（８）若年性認知症や高次脳機能障害のある方への支援

若年性認知症や脳卒中の後遺症による高次脳機能障害を含む認知障害への理解が深まるように啓発活動に取り組むとともに、予防・早期発見・早期対応のための総合的な支援に取り組めます。

また、若年性認知症や脳卒中の後遺症による高次脳機能障害を含む第 2 号被保険者への支援では、県や関係機関、認知症の人と家族の会等との連携を強め、器質性精神障害としての適切な診断につなげるなど切れ目のない支援に取り組めます。